

令和7年度

青森県介護支援専門員

豪雪被害状況アンケート調査報告書

令和8年3月

公益社団法人青森県介護支援専門員協会

目次

1. 調査目的 1
2. 調査方法 1
3. 調査結果 2～14
4. 考察 15～16

「豪雪被害状況アンケート調査」報告書

1. 調査目的

本調査は、令和8年1月21日から2月15日頃までの豪雪により、青森県内の一部地域において災害救助法が適用されたことを受け、災害救助法適用地域において勤務地または居住地が該当する青森県介護支援専門員協会（以下「当会」という。）の会員を対象に実施したものである。

本調査は、豪雪時における介護支援専門員業務への影響や現場で生じている課題を把握し、その実態を行政へ伝えるとともに、今後の支援体制や施策の検討につなげることを目的としている。

2. 調査方法

- (1) 調査対象：当会会員のうち、メールアドレスの登録に協力が得られている会員677名および、メールアドレスが未登録でFAXを登録している会員38名、合計715名とした。
- (2) 調査期間：令和8年3月9日から令和8年3月22日まで
- (3) 調査方法：web調査（Google フォームを使用）
- (4) 調査内容：令和8年1月21日から2月15日頃までの期間に発生した豪雪災害による被害状況について調査を実施した。

〈具体的な調査内容〉

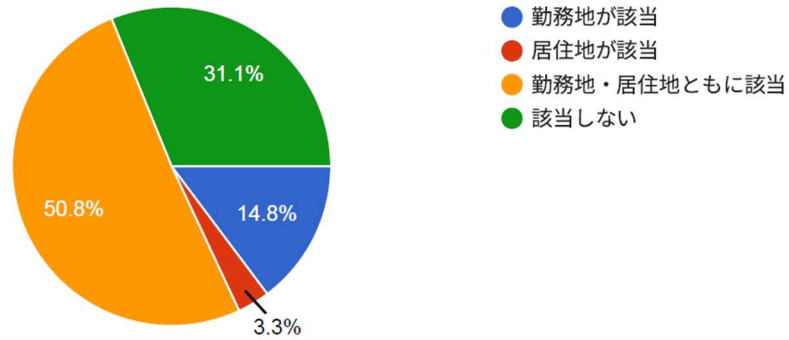
- ・豪雪被害状況（影響のあった業務内容、担当利用者・家族等）
- ・災害時の業務継続計画（BCP）の状況
- ・豪雪災害を通して感じたことや改善要望（自由記載） 等

3. 調査結果

※詳細は2ページ目以降を参照

Q1 今回の災害救助法適用地域との関係を教えてください。

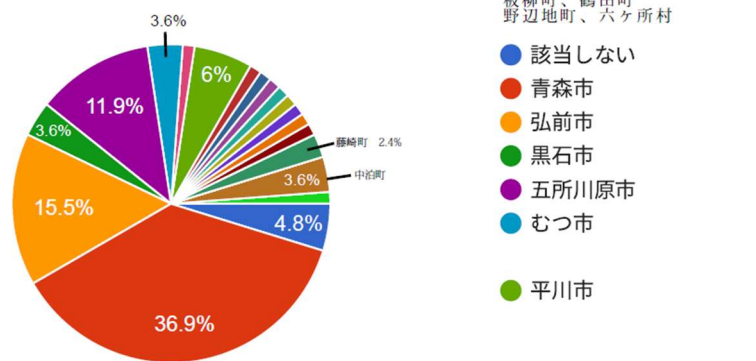
122 件の回答



Q1 該当される方へ

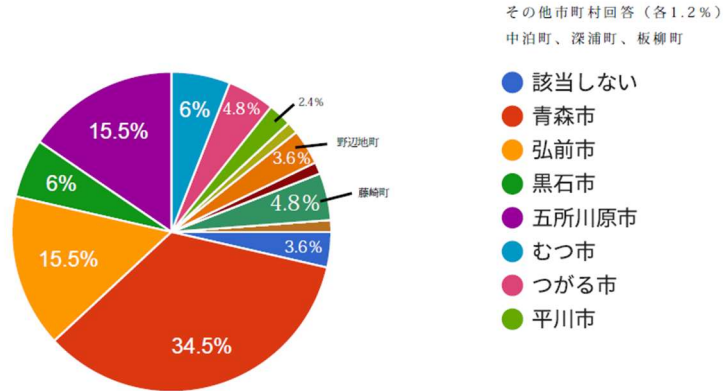
Q2-1 (Q1「勤務地が該当」「勤務地・居住地ともに該当」を選択した方のみ) 勤務している市町村を教えてください。

84 件の回答



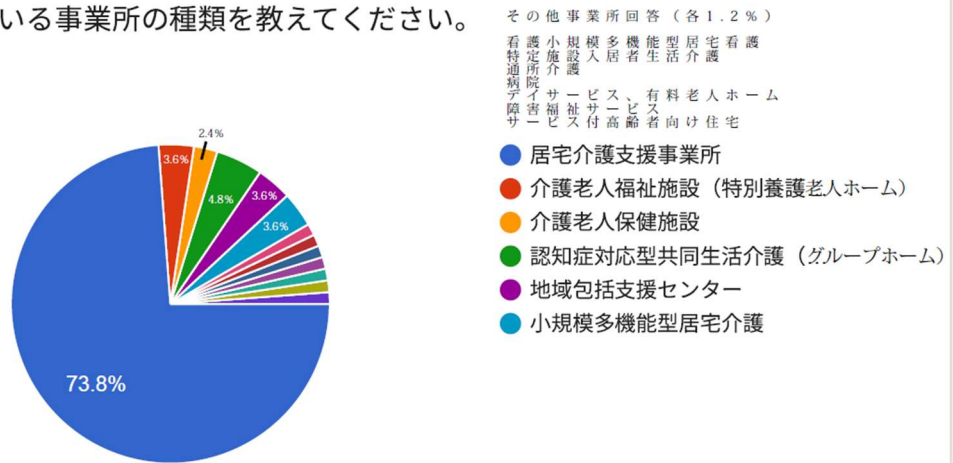
Q2-2 (Q1「居住地が該当」「勤務地・居住地ともに該当」を選択した方のみ) 居住市町村を教えてください。

84 件の回答



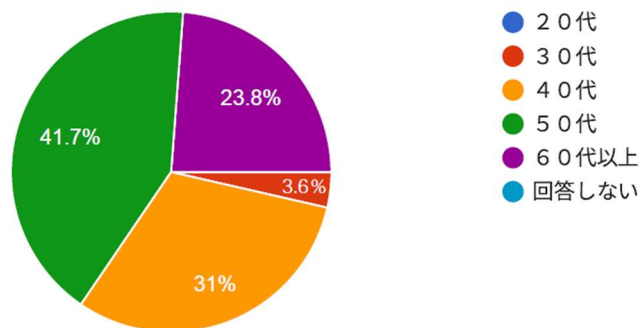
Q3 所属している事業所の種類を教えてください。

84 件の回答



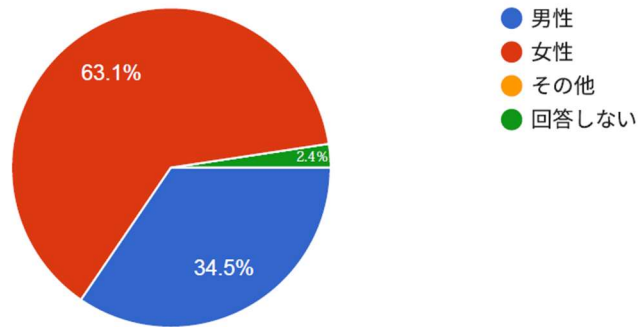
Q4 あなたの年代を教えてください。

84 件の回答



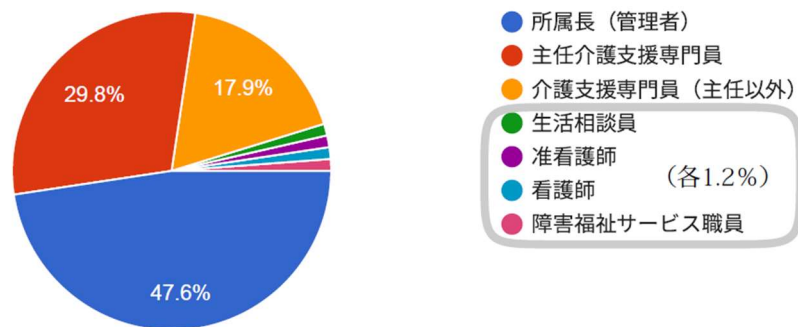
Q5 性別を教えてください。

84 件の回答



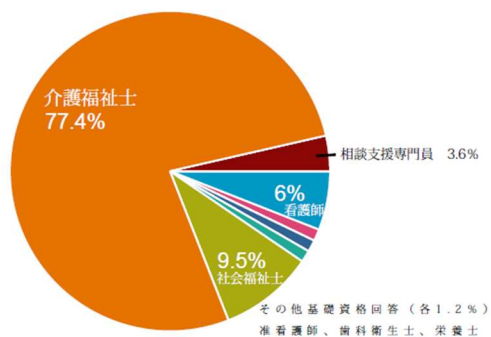
Q6 現在の職位について、最も当てはまるものを選択してください。

84 件の回答



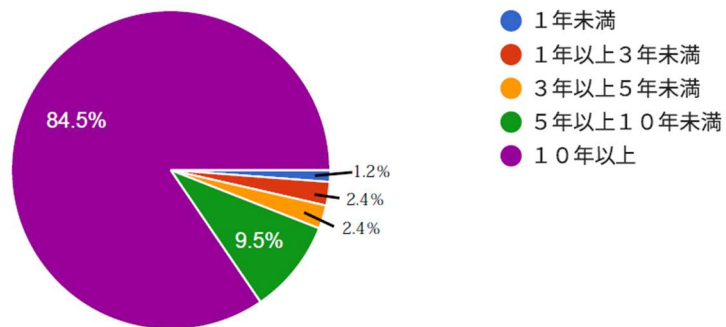
Q7 介護支援専門員取得時の基礎資格について、最も当てはまるものを選択してください。

84 件の回答



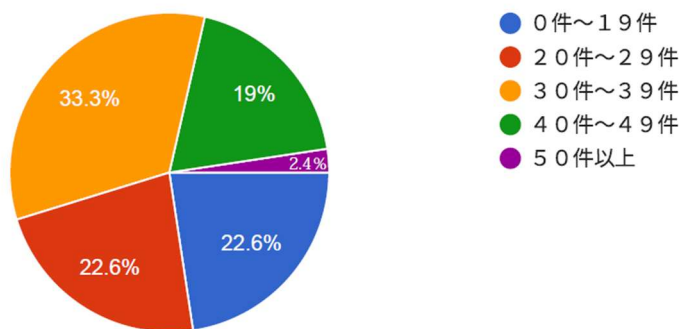
Q8 介護支援専門員としての経験年数を教えてください。

84件の回答



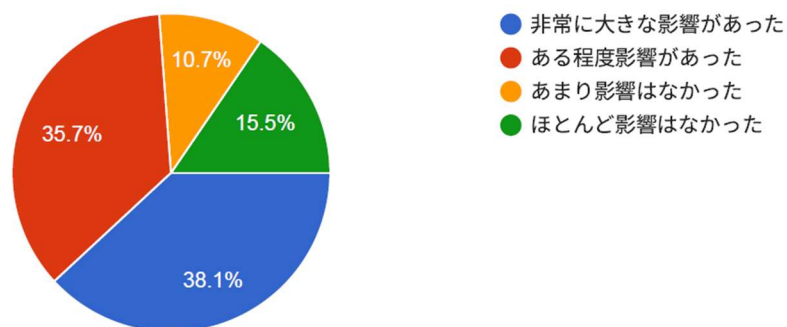
Q9 現在の担当利用者件数を教えてください。※おおよその件数で構いません。

84件の回答



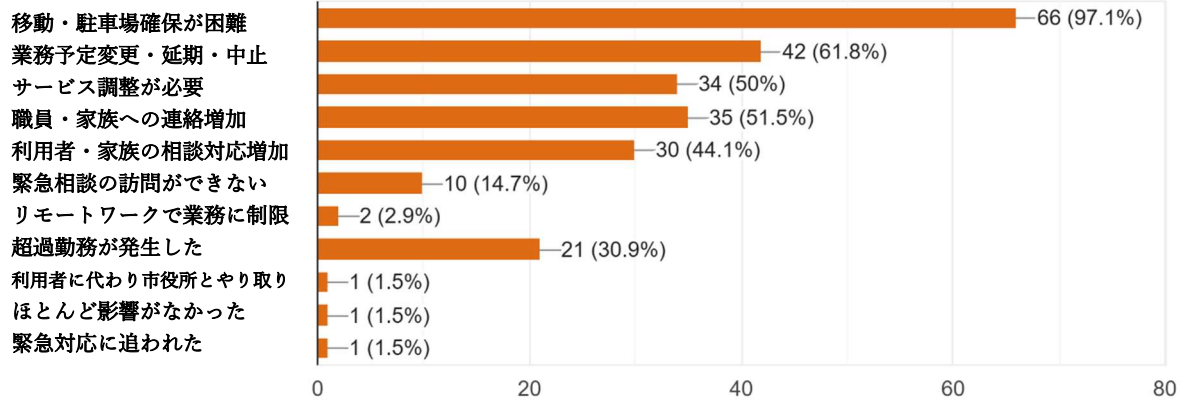
Q10 今回の豪雪により、ケアマネジメント業務全体に影響はありましたか。

84件の回答



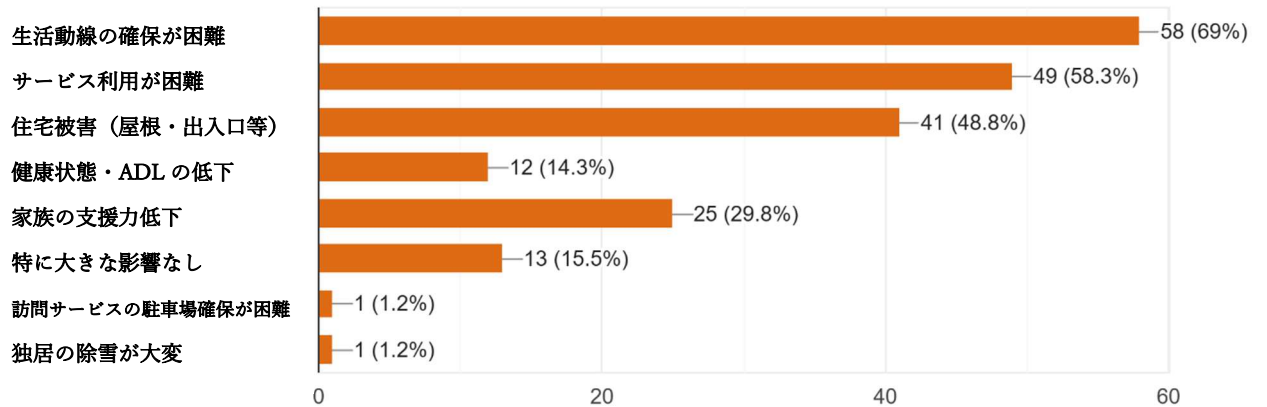
Q11 影響があった業務内容を教えてください。(複数選択可)

68件の回答

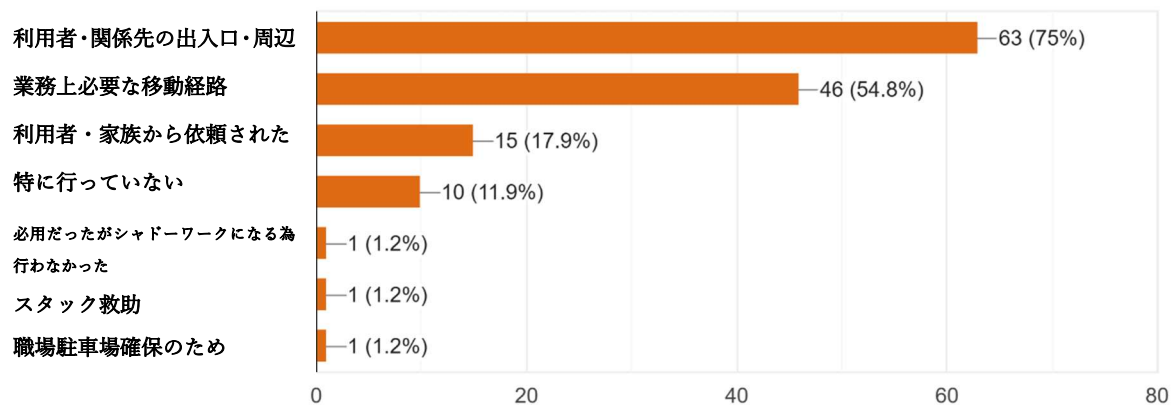


Q12 担当利用者・家族に見られた影響として当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

84件の回答

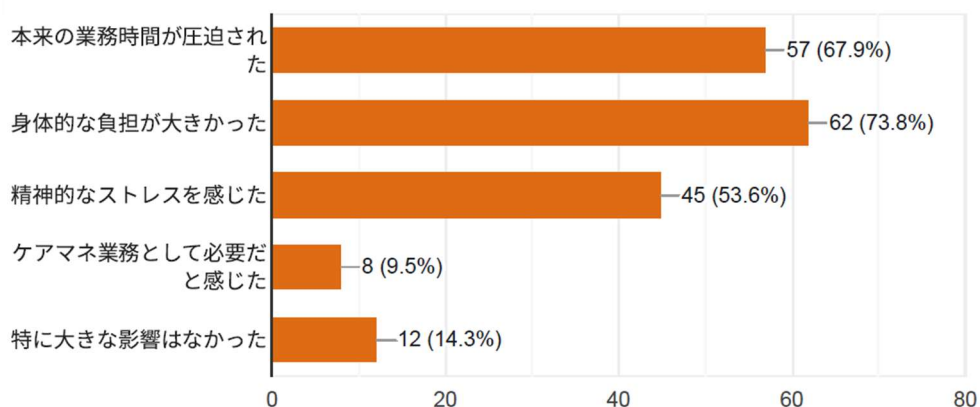


Q13 今回の豪雪により、業務に関連して 除雪・雪かき を行う必要がありましたか。(複数選択可)
84 件の回答



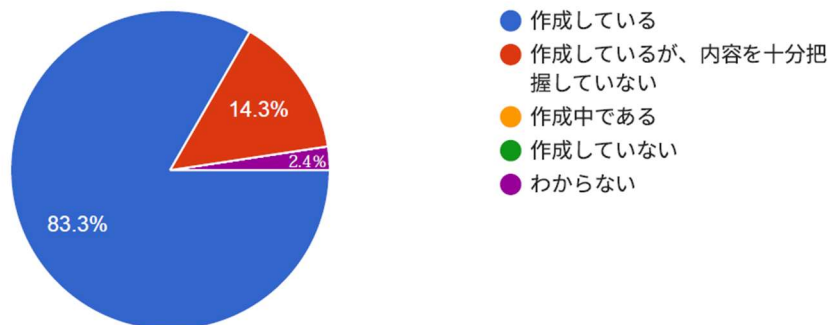
Q14 除雪・雪かきが業務に与えた影響について当てはまるものを教えてください。(複数選択可)

84 件の回答



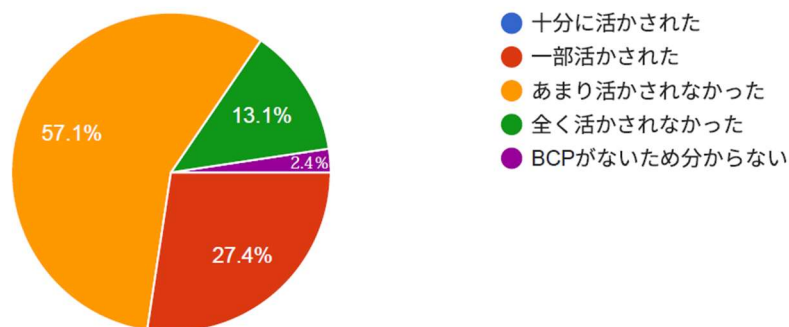
Q15 勤務先では、災害時の業務継続計画（BCP）を作成していますか。

84 件の回答



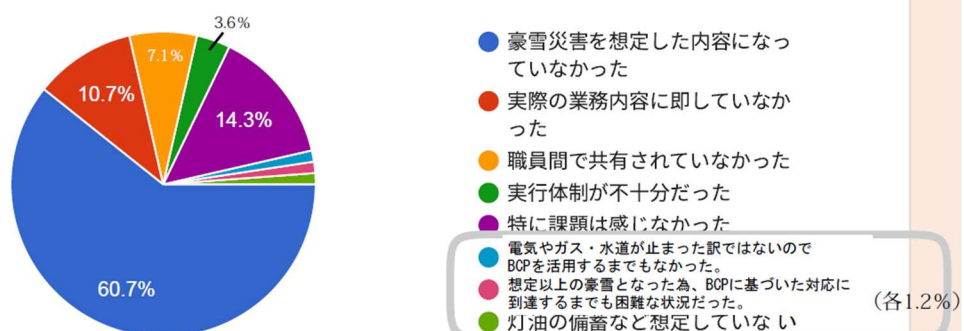
Q16 今回の豪雪において、BCPは業務に活かされましたか。

84 件の回答



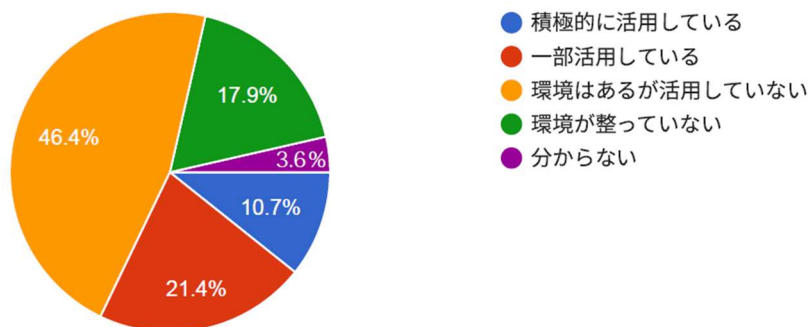
Q17 BCPについて、課題だと感じた点があれば教えてください。

84 件の回答



Q18 今回の豪雪も含めて災害時等、業務継続の観点からオンライン（リモート）を活用していますか。

84 件の回答



Q19 今回の豪雪災害対応を通して、ケアマネとして感じたことや「改善してほしい」と思った点があれば、自由にご記入ください。

1	駐車場から出られなかったり、車を使った移動が困難になった
2	<p>普段であれば15分で到着できる距離に1時間以上かかるため訪問のスケジュールが押した。</p> <p>また、除排雪困難で物理的に駐車スペースが近隣にも無く、利用者さんから訪問をキャンセルする申し出があった。移動に危険が生じる場合はモニタリングを電話やオンラインで行えるようにしてほしい。</p> <p>また、利用者宅にデイサービスの送迎車が入れず、急遽雪掻きを手伝いに行ったケースもある。</p> <p>(生活保護世帯のため、民間の雪掻きへの支払いが捻出できない) 困窮世帯への雪掻きをどこに依頼すれば良いのかと感じました。</p>
3	<p>駐車場の確保が難しく、利用者や家族との面談時間を短縮し対応せざるを得なかった。</p> <p>サービス事業所（訪問介護）等はサービスの変更を余儀なくされることもあり、今後の対応を検討していかなければいけないと思った。</p> <p>生活に余裕のない利用者は市で行っている除雪支援を利用することもない独居の方や高齢者世帯は訪問時に通る分の除雪をしなければいけなかった。</p> <p>どこの利用者、家族も理解はしてくれこの雪、道路状況であれば仕方がないと言ってくれるので助かった。</p>
4	<p>高齢者世帯や認知症の一人暮らしだとオンライン等が活用できないため、訪問するしか手立てがなく訪問しても駐車場がないため、とても苦勞させられた。公民館や公共施設（小学校・中学校・高校等）コンビニ、スーパーなどの駐車場に駐車できるようにしてほしい。</p> <p>また、積雪や落雪により家から出られない場合、どこに相談したらよいかわからないため相談窓口を知りたい。</p>
5	駐車場の確保が必要
6	除雪対応が業務を圧迫した。

7	<p>訪問看護はコンビニ駐車場と提携していたが、ケアマネも訪問には駐車場が必要。介護支援専門員協会としても調整してほしかった。</p> <p>豪雪で介護保険サービス利用できず、実績として計上できなかった。</p> <p>ケアマネから仕事は介護保険のサービス利用したければ実績とならないのはおかしいのでは？</p> <p>医療保険サービス利用していても同じようにケアマネの仕事をしていると認めてほしい。</p> <p>ケアマネのシャドーワークが多すぎて仕事として魅力を感じない。</p>
8	<p>利用者宅に行くまでの道路が徐排雪されておらずモニタリングができない。担当者会議ができない。</p> <p>テレビ電話を持ち合わせていない高齢者が大多数。利用者さんがデイ利用、通院もできない。</p> <p>灯油車も入ってこられず、家族でホテル避難した方もいた。とにかく徐排雪の充実。早めに電話モニタリングで良いという通知を出してほしい。</p>
9	<p>雪が多すぎて、道路から家までたどり着くまでに時間がかかった。</p> <p>利用者の自宅までたどり着く時間が何時間もかかった。</p> <p>独居の為、雪かきをしてくれる人がおらず、車に雪かき用のスコップを積まなければならなかった。</p>
10	<p>屋根雪、除雪対応で疲れた。駐車場もなくて困った。</p> <p>除雪が入っていない利用者宅へ行けなかった。スタックしていけなかった。</p>
11	<p>駐車スペースの確保が難しく、徒歩移動が増えたので、業務時間を圧迫した。空き地の活用等をして、駐車スペースの確保をしてほしい。</p> <p>どこが通れるのか等がわからず、移動に時間がかかり、訪問予定がこなせなかった。</p> <p>道路状況も悪く、運転への恐怖感や、長時間に及ぶ運転のストレスが強く、他者の支援をするような精神状態ではないと思う程の状況もあった。</p> <p>救急車が進行出来ない状況を何度も見かけ、異常な事態だと感じた。</p> <p>自分自身の将来について、この地域で高齢者として生活していけないのではないかととても不安を抱くようになった。</p>
12	<p>毎月の自宅訪問、認定調査の訪問等の道路情報があやふやで訪問が恐怖であった。近くまで車で行けず歩いた。</p>
13	<p>駐車する場所がない。駐車できる場所を確保してほしい（ヘルパーも同様に）</p>
14	<p>駐車する場所がない。除雪が行き届かない場所は訪問することも困難。</p>
15	<p>今年のような災害級豪雪となると地域での対応も困難となってしまう為、最終的には行政で何とかして頂くしかないと感じた。</p> <p>サービス提供が滞るのは最早対策していたとしてもどうしようもない状況と思いました。</p> <p>（移動に1時間2時間かかってしまい道路状況から回避も出来ない為、行き渡らない場面が出てきてしまう為）</p>
16	<p>圧雪による振動は搬送の際に利用者へ大きな負担になっていた。せめて医療機関周辺は除排雪作業をしっかりとやってほしいと願います。</p>
17	<p>除雪が偏っているため、通常業務以外で訪問介護や通所などが訪問出来ないということもあった。そのための調整などの業務が増えた。</p> <p>いつ除雪が入るからいつまでデイサービス休むなどこれからの計画を立てられない不安。</p> <p>利用者は道路状況わからない、家族は仕事ある、私たちは家にたどり着かない。負の連鎖となりストレスを感じた。</p>

18	道幅が狭い住宅街や入り組んだ場所にある住宅に住んでいる利用者宅に訪問介護が入れず、離れた場所にあるスーパーの駐車場に車を止めたので、確実に除雪されているスーパー等の協力も得ることができればいいと思います。ケアマネの訪問よりサービス事業所が確実に入れるようにしてほしい。
19	自分では動かない(お金も出さない)遠方の家族がケアマネにお願いすることが多いその一つに雪の状況確認もあり、例年早い時期から、除雪してくれるシステムや業者または別の住まい等の説明もしているが「ケアマネさん(ヘルパーさん・デイサービスのスタッフ)がやってくれたら」という声が多いのが現実。 本人さん(サービス事業所も)が困っていることを思うと避難経路程度は行いますが、家族の除雪にお金はかけたくない気持ちが見えて心削られています。 ちなみに、行政もいっぱいいっぱい支援を期待するのは難しいので、所属組織でBCP以外にも考えていかないといけないのかと…
20	雪により道路が狭いせいで渋滞になり、利用者宅に訪問する時に時間がかかる。
21	ケアマネは除雪はしないということを全ケアマネが認識してほしいし、 その上で除雪が必要となった場合はどうしたらいいか、(例えばBCPに取り入れる等)検討する必要がある。
22	路面状況が悪く移動時の負担が大きかったことと、駐車スペースの確保が困難であった。
23	スタックや車の損壊覚悟で訪問しても何の保証もなく、修理費等がのしかかるので生活を圧迫する。 徒歩で1時間30分かけての出勤からはじまり、業務以前に出勤できるかどうかの状況であった。 訪問については、近隣のスーパーや銀行などに駐車できるととても助かる。 今回は生活を脅かすほどの利用者を担当していなかったため、そこにかかる手間はなかったが、 独居認知症の方など担当している場合はライフラインの確保や家屋倒壊の恐れなど対処に苦慮すると思うが、 除雪が回らない中で対応方法がわからないため、ある程度マニュアル化されたものがあればよいと思う。
24	一人暮らし、高齢者世帯の玄関から通路確保のための除雪を担う作業員が地域に少なく、 結局業者に依頼する必要があるが費用の問題があり、困難であったため、除雪支援の助成費用の枠を広げて欲しいと感じた。
25	今回の豪雪は災害である。国の発出した通知は、自分の勘違いでなければ市などからも発出のお知らせなど無かった気がする。 1.29よりもっと前に国からは発出してほしかったし、それを周知する工夫も都道府県市町村にはしてほしい。 雪問題は介護業界のことだけではないが、例えば今回のことかというと、除雪は命を守ることそのものであった。 各事業所の除雪などは無報酬である。 そこへの何らかの補助や、報酬は、今後必要ではないか。すべての方が民間の自費サービスを利用できるわけではなく、国そのものがマンパワー不足なのだから「雪かきは介護保険ではできない」などと言っていないレベルに達していたと思う。 来年のためにも、真剣に今回のアンケート内容を保険者、国へ届けて欲しいと思います。
26	独居の方の救急搬送で県外居住のご家族へ帰省のお願いをしたものの公共交通機関は麻痺状態、陸路も厳しい状況で帰省できる状況になく、本人、家族、医療機関との確認の上、入院時の対応となり、夜間の超過勤務につながったケースがあった。近隣に親族等の支援者がいない世帯が多い地域であり、今後の対応策が必要と感じた。

27	<p>今回の積雪は例年以上だった為、除雪が滞っており、どこに行くにも大変で道路を通れない・駐車スペースが無く、遠くの集会所等に停めて徒歩で行き来する事で移動時間も掛かり、次の訪問予定時間に間に合わない・書類作成時間が確保できない等、業務に支障が出ていました。</p> <p>除雪に入って貰う事が一番ですが、まずは各市町村でインフォーマルサービスとして除雪支援可能な業者一覧を把握・情報提供する事が可能ならお願いしたい。支援を求める本人又は CM 等の関係者と、除雪支援に入れる方を繋ぐ事業が有れば、早急に支援に入れる様なアプリを扱っている所も有るので導入してはどうかと考える。利用者に事前に支援の必要性について声掛けしても、その時は断るのが9割程度で、本当に困ってどうすれば良いか分からなくなった時でないと支援を求めない為、事前の資料として何か有れば助かります。</p> <p>その様な地域単位の情報収集が包括・社協以外の事業所にはなかなか伝達されない為、各 CM が問い合わせるにも時間を要してしまう為、他の業務が滞ってしまう事もあります。これもまたシャドーワークに該当する対応に入ると考えますが、支援しなければ利用者が自宅で住み続ける事が出来なくなる現状も有る為、介入せざるを得ないです。</p>
28	<p>【所感】BCP は、社会機能が一定程度維持されていることや早期復旧を前提として作成されている計画である。しかし、今回のように最大で14日間にわたり除雪が入らない状況では、その前提自体が成立しておらず、実際の現場ではほとんど機能しなかった。</p> <p>職員が自宅から職場まで移動すること自体が困難であり、出勤できたとしても通常より大幅に遅れ、業務開始が昼近くになることもあった。</p> <p>さらに、訪問業務についても、事業所を出発できたとしても利用者宅まで到達できない、あるいは車を近くに停める場所がなく徒歩で長距離を移動せざるを得ないなど、業務遂行そのものが困難な状況が続いた。</p> <p>ケアマネジャーの業務は利用者宅への訪問を前提としているため、道路状況や除雪状況に大きく左右される。今回のように地域全体の交通機能が麻痺する状況では、通常の業務体制を維持すること自体が現実的ではなく、事業所単位のBCPだけで対応できるものではないと強く感じた。</p> <p>その一方で、こうした豪雪地域特有の業務負担や移動困難といった実情が制度上ほとんど考慮されておらず、報酬水準は他地域と同一である。</p> <p>地域特性によって業務の困難さや、かかる経費も大きく異なるにもかかわらず、その差が制度に反映されていない現状には、もはや怒りでしかない。</p> <p>今回の災害対応を通じて、豪雪地域の実態を踏まえた制度設計や支援体制の見直しが必要であると強く感じた。</p>
29	<p>利用者宅の雪片付けについてのプラン作りも必要と感じた。</p>
30	<p>生活保護で母親の名義の家に住んでいる方が、除雪できすぎデイサービスを利用出来なかった。</p> <p>ヘルパーやケアマネは自力で雪片付けをして訪問した。あまりにも雪が多く、途中で動けなくなりケアマネとして辛かった。生保にSOSしたが、持ち家でないから出来ないと言われショックでした。</p> <p>また、全盲の方の玄関先の雪片付けを夫と一緒にやった。こんなことまでケアマネがやるのか？皆さんやっているのか？知りたい。</p>
31	<p>災害級の豪雪ではなくても、冬期間は車両周辺の除排雪に時間がかかる。</p> <p>事業所（法人）からは、リモートワークを想定した勤務形態は難しいと言われているが、ケアマネ業務等相談職や事務職員にはしくみとして作っていくように、行政からの後押しがほしい。</p>
32	<p>ガソリン代補助が必要となっており具体的に検討してほしい。</p>

33	<p>利用者宅へ訪問中スタックし自家用車破損。何らかの助成金をお願いしたい。</p> <p>一人暮らしの利用者は閉じ込められた状態になっていることから、我々が対応するならば、命にかかわることなので、それなりに対価は必要だと思う。</p> <p>職場敷地の除雪のためロピアに駐車していたが、ロピア側が車両ナンバーを控えており「次回は出入り禁止にする」と脅されるように言われた。</p> <p>訪問先に向かうためローソンへお願いしたが「だめです」と断られた。</p> <p>職場除雪が10日以上も続き、会社からは「自主的に」と勤務時間前でも報酬もなく、さらに除雪しても労うどころか「除雪の仕方が悪い」と言われる始末。現在退職を検討している。</p>
34	<p>移動（通勤）時間超過や駐車スペースの問題は大きかった。市内全域が大変だったので改善方法もわからない。</p>
35	<p>生活道路の除排雪ができていなかったのが、時間がかかった。駐車スペースが確保できなかった。</p>
36	<p>独居世帯の屋根の雪下ろしをお願いしたが、該当しないと断られた。基準が不明だった。</p>
37	<p>地域課題として豪雪に対する解決方法がなかなか見つからない。頼り手がない。</p>
38	<p>独居高齢者の除雪対応が十分でないがためにショートステイ利用等の必要があり、計画変更に伴うケアマネジメント業務が増えた。</p> <p>サービス事業所から駐車場の確保をケアマネに求められたり、サービスを断られるケースもあり調整に時間を要した。</p> <p>悪路により訪問業務に時間を要した。除排雪を強化してほしい。</p>
39	<p>毎年、雪が降ってもここまで困った事がないように思う。除雪が追い付いていないだけなのか本当に困った。</p>
40	<p>訪問できない状況。車が動かない、埋まってしまい助けに来てもらわなければいけない、何とか訪問に行っても自宅に駐車できない、訪問先までたどり着けないなど、沢山ありました。</p>
41	<p>通りから自宅まで入って行けず、通りも一本道で雪が落ち着いた時に再度訪問することになった。</p> <p>一人暮らしで雪かきで体調を崩してしまった利用者の自宅前が雪で入れず、雪かきをしなければ訪問できず大変だった。</p>
42	<p>屋根の雪下ろしをしてくれる業者がなかなかおらず、いた場合も依頼が多く、数日後など即座の対応できる業者も方法もない。</p> <p>又、作業代も高額の為、経済的余裕のある人以外はなかなか依頼できない状況。</p> <p>災害救助法が発令され、生活困窮者も屋根の雪下ろしを無償でもらえたが、早いうちに対策ができればここまで被害は大きくならなかったと思う。</p> <p>行政で冬期間は災害予測対策本部を立ち上げ、危険予測箇所の除雪を普段から行うような体制ができればいい。</p>
43	<p>生活道路の除雪がなく利用者訪問の際にスタックしてしまい訪問できなかった。</p>
44	<p>豪雪時の高齢者世帯・独居者の除雪支援（いつもはできても連日だと疲労が増大し、追いつかなくなるため）</p>
45	<p>道路および生活道路の除雪が進まず、訪問車両が走行できず、利用者宅に辿り着かない。</p>
46	<p>青森市の除雪の対応！</p>

47	<p>駐車場に関しては、ケアマネだけで無く訪問介護員も困っていた。コンビニやスーパーなどにとめれたらとても助かる。</p> <p>除排雪が酷い状況で、送迎車が入っていけない、利用者に必要な車両で迎えに行けない、訪問の車がスタックし訪問に行けない、渋滞による送迎時間の大幅なずれ、悪路による利用者への身体影響、利用者から問い合わせがあっても伺うまでに、悪路や周りのスタック・通行止めに巻き込まれすぐに対応できない、そもそもで車では入っていけない、等とにかく道路状況が酷かった。</p> <p>職員も除雪が入らない為に出勤ができなかったり2時間かけ徒歩で出勤するなど、疲弊していた。</p> <p>連絡がつかない等で状況確認に伺おうにも利用者宅にたどり着けず、高齢者の命にかかわる危険性もあった。</p> <p>そんな中、送迎・訪問で変更・追加対応してくれた介護員に感謝しかない。介護員がいなかったらケアマネだけではどうする事もできなかった。</p>
48	<p>利用者訪問時、除雪されていない場所や駐車出来るスペースが無いため、近所に短時間10分程度車をお願いして、訪問した。</p> <p>また時間に余裕を持って出たが、それ以上に時間がかかり、電話連絡をする事もあった。</p> <p>除雪は仕事では無いとされても高齢独居や夫婦であれば、玄関前の確保で除雪しなければならない事もある。</p> <p>また反対にヘルパーさんに除雪を求める方もあり、支援内容では無いと説明する事もあった。</p> <p>除雪を支援する方、シルバー人材センターでも、すぐの対応が出来ない、人材不足で対応が出来ない事もあり、時期が来たら消えてなくなるのが雪だが、対応が大変になってきていると感じる。</p>
49	<p>訪看以外の職能団体でも、パチンコ屋、ドラッグストアなどの駐車場を利用できるように働きかけができないものか。</p> <p>行政業務に関して、複写物の請求などできるだけ窓口に行かなくて済むような対応が望ましい。</p> <p>各職能団体でそういった要望を集めて提案してみたらどうか。</p>
50	<p>車の移動に時間が取られていたため渋滞を改善してほしい。</p>
51	<p>市営住宅（小柳、桜川）などの訪問に駐車場がない。問い合わせでも対応してもらえない。</p>
52	<p>独居の方の訪問サービスが駐車できないため、ケアマネが雪かきに行った。</p> <p>近所の方に「また雪が降ったら、空いてるところに駐車させて欲しい」と頼みに行ったり、訪問サービスにも駐車場の確保ができた連絡をしたり、</p> <p>除雪サービスも来れなくて軽度の認知症で独居の方から何度も不安の電話が来るなど、対応に時間を費やした。</p>

【アンケート調査に基づく考察】

豪雪時における在宅介護継続の構造的課題と対策への提言

1. はじめに（背景）

本考察は、令和 8 年 1 月、青森県全域を襲った記録的な豪雪被害を受け、在宅生活を支える最前線である介護支援専門員および訪問介護員が直面した困難な実態を明らかにするために実施したアンケート調査に基づくものである。

介護現場において、豪雪は単なる移動の障害ではなく、利用者の生命の安全とサービスの提供継続を直接的に脅かす「災害」となった。

本資料は、調査から浮き彫りになった構造的な課題を共有し、行政としての迅速かつ具体的な支援体制の構築を強く求めるものである。

2. アンケート調査から見える現場の現状

調査結果からは、県内の介護現場がサービス提供の限界点にあることが示された。

- **移動と安全の確保における限界**：介護支援専門員の 97.1%が「移動・駐車場確保が困難」と回答。また、訪問介護事業所においても 65.4%(豪雪地域以外の回答も含む)が移動に困難を抱えており、現場はサービス提供の限界点にある。
- **介護の断絶とリスク**：除雪不足によるスタック（車両の立往生）や、駐車場所の確保不可により訪問を断念せざるを得ない事態が多発した。これは独居高齢者の孤立や、必要な医療・介護から切り離されるという致命的なリスクを内包している。
- **現場職員の疲弊**：徒歩での出勤、連日の長時間にわたる除排雪活動、道路渋滞によるサービス時間の遅延等、職員の心身は既に限界に達している。現場の自己犠牲的な献身のみで維持されているのが現状である。

3. 問題の所在：構造的限界

- **「除雪」と「ケア」の境界問題**：利用者宅周辺の除雪遅延は、現行の介護制度では解決できない「地域課題」として放置されている。
- **調整コストの増大**：駐車場所の確保交渉や悪路移動に多くの時間が割かれ、本来のケアマネジメント業務や介護サービス提供が圧迫されている。
- **公的支援のタイムラグ**：利用者から除雪に関する自治体への依頼の連絡が殺到し、緊急性の高い介護現場への優先対応が行き届いていない。

4. 要望への結びつき：不可欠な支援策

利用者の命をつなぎ、地域包括ケアシステムを維持するためには、自助努力の限界を超えた行政の関与が不可欠である。

特に駐車場の確保に向けた協力体制の構築は、職員の安全とサービス提供を両立させるための最優先事項である。

【調査データ要約】

豪雪時における介護現場の困難さの実態

■ 介護支援専門員の回答（移動・駐車場確保について）

- 回答者の 97.1%が「移動・駐車場確保が困難である」と回答。
- 「困難ではない」との回答はごく僅かであり、県内全域で移動に支障が生じていることがデータから証明されている。

■ 訪問介護事業所の回答（移動・除雪不足の影響）

- 「非常に困難」＋「やや困難」の合計：65.4%(回答は豪雪被害地区以外も含む)
- 多くの事業所が、サービス提供において回避困難な物理的障壁に直面した。

■ 現場の切実な声（自由記述の要約）

- サービス提供の断絶：「駐車場所が確保できず、訪問を諦めざるを得ないケースがあった」「一本道で自宅まで入っていけず、再訪問を余儀なくされた」
- 業務の過負荷：「除排雪を自分で行わなければ訪問できず、身体的に限界だった」「訪問介護員がいなければケアマネだけではどうすることもできなかった」
- 構造的な孤立：「地域課題として、誰に頼ればよいか分からない」「市役所にも依頼したが、殺到しており迅速に動いてもらえなかった」

■ 本要望の目的

本アンケート結果が示す通り、介護現場の困難は一時的なものではなく、豪雪時における「制度の空白地帯」に起因している。

本要望書にて提言する「駐車場確保に向けた行政の協力」は、単なる利便性の追求ではなく、災害時における高齢者の命の安全を守るための必須インフラとして、早急な検討と実施を求める。